

日軍占領下秦皇島港における 語学講習会用日本語教科書の考察

— 『日本語読本』と『効果の速成式標準日本語読本』に着目して—*

齊 海娟

A Survey of Japanese Textbooks Used by the Foreign Language
Workshop of Port Qinhuangdao under the Occupation of Japanese Army:
Focusing on The Japanese Readers and The Standard Japanese Readers with Rapid Effect

Qi Haijuan

摘要

受日本侵华战争影响, 1937年后, 日本在中国占领地所使用的日语教材内容含有同化意图与皇民化色彩, 是典型殖民地性质的教材。本文着眼于日军侵占秦皇島港时期针对秦皇島港职员所进行的外语讲习会的日语教育实况, 探究在日语教育过程中, 将最初使用的日语教育振兴会编纂的《日本語読本》更换为大出日语教育所出版发行的《效果の速成式日本語読本》的原因, 进而通过对两套教材的比较与分析, 归纳并总结出两种教材的主要特征以及使用效果。

キーワード 秦皇島港 日本語教育史 語学講習会 日本語教科書

* 本文系全国教育科学“十二五”规划2015年度教育部青年专项课题“从秦皇島港档案看日军侵占时期外语推广及奴化教育实施策略”(课题编号: E0A150359)的阶段性成果。

はじめに

現在、中国大陸における日本語教育史に関する研究成果では、「日本語普及政策」と「奴隸化教育」が注目されている。かかる先行研究としては余子侠ほか（2005）、斉紅深（2004）、武強（1994）、王野平ほか（1989）をはじめとする一連の研究のほか、日本人研究者では田中祐輔（2015）、田中寛（2015）、多仁安代（2000）、関正昭（1997）、関正昭ほか（1997）などの研究があり、日本側の研究では現在も日本語教育史に関する専門的な研究が盛んである。教授法、教科書、教員養成などについても詳細な研究が進められている。その中では、大出正篤と『効果的速成式日本語読本』¹に関する研究がいくつかあり、前田均（2005）、荒川みどり（2013）、坂田篤義（2015）、荒川みどり（2015）があげられる。これらの研究では教授法に着目しているものが多く、学習効果に対する実証研究は少ない。一方、中国側の研究では日本語教育史について触れている箇所があるものの、いずれも日本軍占領地における日本語教育を中心にした詳細な研究はいまだ少ないと言える。特に占領地における日本語教科書の研究はほとんど行われてこなかったと推測され、とりわけ中国側では大出と『効果的速成式日本語読本』に関する研究は、管見の限りでは見当たらない。したがって、日本語教育に用いられた『効果的速成式日本語読本』の分析を通して、日軍占領下秦皇島港における日本語教育の実態について、さらに綿密な考証が必要だと考える。

本稿では『効果的速成式日本語読本』（全4巻）と『日本語読本』（全5巻）²を比較し分析することにより、教材編纂において何を伝えたかったのか、何を学習者に涵養させたかったのかについて論じる。また、二

1 『速成式効果的日本語読本』（全4巻）は筆者所蔵、『速成式効果的日本語読本学習指導綱要』は言語文化研究所復刻シリーズ。

2 日本語教育振興会編著『日本語読本』（全5巻）は東京外国語大学コレクション所蔵。

種類の教科書に現れる特徴及び使用効果にも言及する。さらに、日軍占領下秦皇島港における中国人職員を対象とした日本語教育の在り方について考察を行い、その実態を明らかにする。

一、秦皇島港における語学講習会

(一) 語学講習会の開設と実際

1941年12月8日、太平洋戦争が勃発し、日本は秦皇島港を全面的に占領した。同年には日本第76回帝国議会在開会されている。日本語は「大東亜共栄圏」において通用語、あるいは公用語と位置づけられ、海外普及の観点から重要視されるようになった³。「大東亜共栄圏」への日本語普及は使用を強制することによって皇民化を図ることが目的の一つであった⁴。日本政府は中国占領地への日本語教育を日本語の拡大政策上、重要視していた。中国占領地における日本語教育の中心となったのは華北であった。ここでは教授法について、直接法と対訳法の有効性をめぐる論争が起きた⁵。「外地」や占領地における日本語教授法についての従来の研究を総括すると、これらの地域での直接法が学習者の母語を奪い、言語侵略の役割を担ったとする点で共通すると言えそうである⁶。「當港務局ニ於テハ昨年七月中級社員ニ日本語講習ヲ開始シテ以來満一年ヲ經過シタルヲ以テ本年七月三日初等科修業式ヲ挙行セリ。當初講習参加者ハ一三三名ナリシガ初等科修了者ハ別表ノ通り六一名ニシテ落伍者七二名ヲ出セシハ甚ダ遺憾ナリ⁷」から見れば、秦皇島港における語学講習会が昭和17年（1942年）7月中級職員に日本語の講習を開始し、秦皇島港

3 多仁安代（2000）『大東亜共栄圏と日本語』 勁草書房 p4.

4 前掲3 p12.

5 前掲3 p18.

6 前掲3 p19.

7 「港務局日本語講習会に就て」（1943年） 秦皇島港史志課档案室所蔵開港外国語档案教育管理卷 日本語講習会に関する件 元卷号無 現卷号5286.

における日本語教育の主要な対象が高年齢化したのであり、結果は理想的ではなかったことが分かる。

(二) 語学講習会用教科書概況

講習会の開催された当初は以下のような教科書が使用されていた。

- 〔初等科一ケ年 話方 ハナシコトバ、東亜同文會発行上、中、下
読方 日本語讀本、日本語教育振興會発行卷一、二
普通科二ケ年 話方 一級会話（業務上参考トナル如ク寫點ヲ置ク）
読方 日本語讀本卷三、四、五、六
作文 華文日譯、自由作文、書簡文
高等科二ケ年 話方、讀方、作文共ニ日常業務ヲ日本語ヲ以テスル
モ何等支障ナキ程度ヲ目標トシテ養成ス⁸〕。

昭和19年9月27日に秦皇島港務局の荒木忠次郎から総務局総務部学務処の飯塚計作へ以下のような連絡があった。

「港務局は従来日本語讀本（日本教育振興會編纂）を使用シ居タル為メ先般ノ試験は合格者甚ダ僅少ニテ遺憾千萬ニ存ジ候學者ニトリテ試験問題が教科書外ヨリデルコトハ結果ニ於テ相違アルニ付當方モ今後ハ速成式標準日本語讀本ヲ採用仕度候處何分當地ニテハ入手困難ニ付甚ダ乍恐縮左記ノ通り至急御注文ノ上御發送方御願申上候……速成式標準日本語讀本卷一 三〇冊 卷二 二五冊 卷三 八冊⁹」

このことから、教科書を変更する願望がこの時点で存在していたと分かる。

⁸ 前掲7

⁹ 秦皇島港史志課档案室所蔵開港外国語档案教育管理卷 日本語講習会に関する件 元卷号無 現卷号5286.

二、日本語教育振興会¹⁰編著『日本語読本』¹¹

1941年に仮名遣いは従来 of 歴史的仮名遣いを大幅に改められ、いわば現代仮名遣いに近いもので、1940年からすでに行われていた用語の簡易化、漢字制限とともに日本語全般にわたる簡易化が実行に移されたのであった¹²。また、この時期には皇国史観に由来する外来語排除の方針から「スケート」を「氷すべり」、「アメリカン・フットボール」を「鎧球」などの外来語と言い替える風潮が高まっていた¹³。

日本語教育振興会が設立された主な目的の一つは教科書の編纂出版であった。以上のような情勢の中、1941年から1943年にかけて『日本語読本』全5巻は刊行された。初等教育で日本語の正規の学習をして話し言葉を習得した者が、次に書き言葉を学習するために、中国大陸向けに作成されたものが主である。学習指導書も付いており、授業時間数は原則としては毎週三時限を基準として編纂されている。内容は日本人の日常生活特に児童生活・児童心理に関するものが採用されている。そして、「善隣友好」、「日支提携」に関するものも収載されており、歴史的仮名遣いも採用されている。挿し絵を特に重視し、教材場面の瞬間的描写として活用することにより、教室で話し言葉を運用する際に役立てることが期されている。そのほか、ガ行鼻濁音・無声化母音の記号も施されている。

三、大出正篤と『効果的速成式日本語読本』

(一) 大出正篤

1922年に大連の満鉄教育研究所講師であった大出正篤は南満州教育会

¹⁰ 1938年に中国占領地域の統治を管掌する興亜院が設置されると、中国占領地域における日本語教育は興亜院と文部省が協力して実施することになる。1941年には両省庁が共管する団体として「日本語教育振興会」が設立された。

¹¹ 東京外国語大学学術成果コレクション所蔵。

¹² 前掲3 p13.

¹³ 前掲3 pp15-16.

教科書編輯部の初代主事となり、1929年に教科書編輯部主事を退き、南満中学堂教頭（1930年～1934年）の職に就いた。1935年になると公職を退いて満州図書文具株式会社の取締役となり、南満州教育会教科書編輯部や満州国政府が編纂した教科書に対する訳注本を作成し、民間人の資格において「参考用」として出版する¹⁴。

満州国における日本語教育は、台湾や朝鮮の国語教育とは異なっていた。年少者を対象とした学校での日本語教育はそれほど普及せず、社会人対象の検定試験合格を目指した日本語教育の方が盛んであった。そこで大出は対訳法である成人向けの速成式教授法を主張した。中国語による対訳と注釈を付した総ルビの教科書を用意し、本文の意味と読みについては自宅で対訳法により予習をさせ、授業では専ら口頭発表と会話練習を行う学習法を考案した。この教授法については、大出と当時台湾・朝鮮を経て満州国に移ってきた山口喜一郎の間に論争が起きた。

（二）『効果的速成式日本語読本』

満州国や占領地では広大な地域に広がる中国側学校において一挙に日本語教育を始めようとしたため教科書や教員が不足し、特に初等学校において日本人教員の占める割合は低くなり、日本語の時間数も少なくなった。そこで、大出正篤は訳注本の形式に則りながら成人向けの教材を新たに検討して『効果的速成式標準日本語読本』（全4巻）を1937年から自ら経営する満州図書文具株式会社から出版した。この教科書は満鉄や満州国が行っていた語学検定試験合格を目指して夜間の日本語学校等で日本語を学ぶ成人を主な対象として編纂されたものであったが、実際には大出の教科書は満州国や華北の中等学校などで広く用いられていた¹⁵。

¹⁴ 駒込武（1991）「戦前期中国大陸における日本語教育」『講座日本語と日本語教育 第15巻 日本語教育の歴史』 明治書院 pp135-139.

『効果的速成式日本語読本』は全4巻である。各巻の初版は1937年から1942年にかけて刊行されたものである¹⁵。第1巻、第2巻、第3巻、第4巻はそれぞれ語学検定試験4等、同3等、同2等、同2等ないしは1等の合格を目標としている。想定された学習時間はそれぞれ150時間、200時間、200時間、250時間で、合計で800時間である。第2巻が刊行された1938年、「効果的速成式日本語教授法の要領並ニ『効果的速成式標準日本語読本』の編纂趣旨」というパンフレットに教授法の要点がまとめられている。本稿では当時の秦皇島港における中国人職員を対象とした日本語学習者の実態を究明するために、この教科書の本文を分析対象とする。

四、『日本語読本』と『効果的速成式日本語読本』の比較

(一) 編纂趣旨

大出は「日本語普及の大勢に應ずるためには真っ先にこの教授法を確立してかからなければならない。満州の情勢支那の現状に対し、続いて欧米諸国の呼びかけに対して如何なる教授法を以て臨むべきかを決する事が必要である。その教授法を定めるには先決問題として教授目的、習う者から言えば学習の目的を考えなければならない。1 会話（話方のみを目的とする場合）2 読解（読方のみを目的とする場合）3 会話と読解両者を目的とする場合 この三つの場合が考えられる。……第三の会話も出来それに相当した読解力も得たいというのが最も多数の希望であろう。これ正則の場合であってこの目的で習ってこそ日本語普及の意義もあると言わなければならない。」と述べている¹⁷。「話方式教授法が日本

¹⁵ 前掲14 p139.

¹⁶ 本稿が資料とした『効果的速成式標準日本語読本』巻1から巻4まで各各1942年62版、1943年67版、1943年21版、1943年4版である。

¹⁷ 大出正篤（2010）『速成式効果的日本語読本学習指導綱要』日本語教育史資料叢書〈復刻版〉第8期 冬至書房 pp14-16 原文は古語で、現代語訳は筆者。

語を外国語として研究した経験のある人が用い、会話力と読解力を併せ与える唯一の方法である。これが台湾に起り朝鮮に渡り満州でも広く用いられている正式な日本語教授法である。この教授法には自然式話方教授法と速成式教授法という二つの種類がある。後者は成年大人を目標として手取り早く日本語を役立たせるように教えようという方法である¹⁸。『効果的速成式日本語読本』には話方教授法の中での速成式教授法が使用されている。効果的速成式日本語教授法の要点としては、「会話の力を第一に与えること」、「語句文の読み、語句の解釈、記憶、書取・文法・聞方等に費された時間を省かねばならないこと」、「効果的語方教授を実際に取扱うこと」、「効果的教授に要する条件を備えること」である。『日本語読本』は初等教育における話し言葉を習得した日本語の正規の学習者を対象として、書き言葉に習熟せしめようとするものであるが、指導過程においては書き言葉の教授と話し言葉の訓練が必要である¹⁹。以上より、『効果的速成式日本語読本』は会話力、『日本語読本』は読解力が重視されていると言えよう。

(二) 教材構成と本文内容

1. 『効果的速成式標準日本語読本』

巻1は語学試験の4等程度を目的としており、その時間数は150時間ないし200時間と限定されている。課数が60課であるから、一課あたり2時間半から3時間かかる。一日1時間学習する場合は6箇月ないし8箇月で4等の試験に合格させることを想定している。一日2時間の場合は3、4箇月でとなる。本文は130頁あり、目次にも漢字の読み方が付いている。拗音や促音には現代仮名遣いのように小字が用いられている。

¹⁸ 前掲17 pp17-18 原文は古語で、現代語訳は筆者。

¹⁹ 日本語教育振興会編 (1943)『日本語読本学習指導書巻1』 p1.

本文は少なく、問答を中心にした会話練習は極めて多い。発表形式は易しいものであり、文型の数も少ない。日常用語が採用されており、「補充語」が置かれ、本巻語数は約1700語である。巻1の内容については、次の表に示す通りである。

表1 『効果的速成式日本語読本』巻1の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	ナンデスカ	16	昨日	31	姓名	46	動詞ノ用法
2	ダレデスカ	17	日曜日	32	四季	47	雑貨屋
3	コレ・ソレ・アレ ワナンデスカ	18	今日ワ何日デスカ	33	夏	48	田中サン
4	ナニガアリマスカ	19	春	34	私ノ家	49	應接室
5	ダレガイマスカ (オリマスカ)	20	反対語(形容詞)	35	私ノ家族	50	時計
6	ハイ	21	姓名	36	方角	51	小サイ妹
7	イイエ	22	何歳デスカ	37	町	52	兎ト龜
8	ダレノくつ	23	私ワ	38	乗物	53	缺勤
9	ココ・ソコ・アソコ	24	私ノ教室	39	秋	54	小鳥
10	數	25	掃除	40	日本語	55	遠足
11	オ早オゴザイマス	26	今日ノ天氣	41	野原	56	日本ノ貨幣
12	先生ノ詞	27	時間	42	物ノ數エ方	57	万年筆
13	讀ミマシタ	28	一日	43	何處ノ學校	58	靴屋
14	學校	29	朝ノ仕事	44	原籍ト現住所	59	旅行
15	缺席	30	反対語(動詞)	45	冬	60	御土産

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

この表1に示すように、巻1は全て片仮名で表記されている。漢字が使用されるのは10課以降である。歴史的仮名遣いも用いられておらず、表音式仮名遣いが採用されている。助詞「は」「へ」「を」は「わ」「え」「お」が用いられ、発音しやすいように工夫されている。40課、48課、56課では日本あるいは日本語に関する内容が出てくるが、日本文化の面には触れられていない。

『効果的速成式標準日本語読本』巻2は巻1の続きであり、語学試験3等程度を目標としている。学習時間は200時間或いは250時間で、課数は70

課で、本文は176頁である。語数は新語約750、関係語約750、計約1750語である。巻1と同様、目次にも漢字の読み方が付けられ、各課ごとに「会話練習」と「関係語」が置かれている。巻2の内容は以下の表の通りである。

表2 『効果的速成式日本語読本』巻2の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	畑	19	訪問	37	友人の手紙	55	買物依頼
2	杏ノ花	20	秋	38	招待状	56	轉勤
3	仮名遣	21	小包	39	初対面の挨拶 (對話文)	57	見送り
4	新シイ帽子	22	習字	40	ダリヤの花	58	出迎へ
5	種痘	23	ラジオ體操	41	南京蟲と虱	59	ピンポン
6	語學試験	24	スケート	42	形容詞の活用	60	寫真
7	弟	25	雪ノ日	43	大豆	61	敬體ト常體
8	私ノ家ノ猫	26	山田先生	44	鏡	62	或日曜(常體文)
9	隣ノ犬	27	不幸ナ人	45	賢い兄弟	63	煙草と酒(常體文)
10	國旗	28	動詞ノ活用	46	口頭試験	64	新聞(常體文)
11	恩	29	公園	47	會社のボーイ	65	漢字ノ音ト訓 (常體文)
12	父ノ病氣	30	朝ノ挨拶(對話文)	48	道ヲ聞ク(對話文)	66	神社(常體文)
13	電報(對話文)	31	百貨店	49	すき焼き	67	名畫(常體文)
14	町並木	32	隣寸	50	笑話	68	初めて飛行機に 乗って(常體文)
15	本屋ノ買い物 (對話文)	33	カレンダー	51	果物	69	保險(常體文)
16	金錢	34	鶴ト烏	52	新しい洋服	70	職業(常體文)
17	電話	35	夏ハ暑イ	53	貯金		
18	取次	36	片假名ト平假名	54	年末賞與		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

この表2に示すように、巻2からは歴史的仮名遣いで表記されているが、漢字を音読する場合、表音的仮名遣いと歴史的仮名遣いの折衷が用いられている。平仮名は37課から導入されていた。しかし、会話形式本文および61課と65課の本文文章は片仮名・漢字のみであった。最後の10課は口語常体文であり、読解教材としても便宜を図っている。地名や花などが取り上げられているが、ほとんど大陸にあるものであったのは、

学習者の学習背景を考慮しているためであろう。

巻3は巻2の続きで、200時間の学習で、語学試験2等程度を目標にしている。本文と新出語彙（25課まで）に対訳が付与されており、目次からは漢字の読み方がなくなっている。文の読解に力を注ぐ時期になっており、本巻においても、「関係語」が置かれているが、「会話練習」がなくなり、「練習問題」を加えられている。

表3 『効果的速成式日本語読本』巻3の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	新年	14	就職依頼（対話）	27	書物借用（対話）	40	日本の諺 （日本事情）
2	日本の祝祭日 （日本事情）	15	葉書文 （書翰文）	28	図書館と博物館	41	動詞の用法（語学）
3	爲替と小包 （対話）	16	時計の話	29	蓄音機を買フ （対話）	42	作文の心得 （語学）
4	物の数へ方 （語学）	17	日本語の代名詞 （語学）	30	形容詞の用法 （語学）	43	世話になった人へ （書翰文）
5	語学試験を受けて	18	病氣と衛生	31	日本の風景 （日本事情）	44	日本の文體 （語学）
6	汚れた靴	19	暑さ	32	日本の年中行事 （日本事情）	45	日満支連絡 （対話）
7	プラットホームにて （対話）	20	日本の大都会 （日本事情）	33	戸口調査 （対話）	46	千人針 （日本事情）
8	奉天から北京まで	21	日本人の衣服 （日本事情）	34	日本の行政組織 （日本事情）	47	雛祭と端午の節句 （日本事情）
9	案内依頼問答 （対話）	22	暦	35	讀方の難しい 日本語（語学）	48	趣味の生活
10	銀行	23	日記	36	句讀法（語学）	49	映畫
11	日本の家 （日本事情）	24	近況を報ずる手紙 （書翰文）	37	日本人の食物 （日本事情）	50	新聞と雑誌
12	大掃除	25	漢字用法の相違 （語学）	38	食堂（対話）		
13	訪問の作法 （日本事情）	26	夜學	39	ラヂオ		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

この表3に示すように、巻3は平仮名・漢字・片仮名を混交した形式である。ただし、会話形式の本文は片仮名・漢字のみである。巻3から

日本事情に関するものが登場し、50課中12課が該当している。これにより、日本文化の導入を重視するようになったことが分かる。

巻4は250時間の学習で、語学試験2等ないしは1等程度を目標にしている。読解力の養成を中心としており、上級階段に進んでいる。総課数は50課で、各課は1課平均5時間で、総時数は約250時間である。対話文だけを口語敬体とし、その他は口語常体としている。

表4 『効果的速成式日本語読本』巻4の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	日本の武士道精神 (日本事情)	14	日本旅行座談會 (對話)(日本事情)	27	蘭印事情	40	流行歌と民謡
2	日本女性の鑑 (日本事情)	15	標準語とアクセント (語學)	28	漢文ノ日本讀ミ	41	外國思想の日本 化と世界の大勢 (昭和國民讀本)
3	自動詞と他動詞 (語學)	16	死守した發電所	29	漢文訓讀	42	麥畑の進軍 (麥と兵隊)
4	舊師を迎へて (對話)	17	ヒットラー	30	候文の文體	43	土に還る日 (大地)
5	萬壽山を觀る	18	久し振りに逢つて (對話)(日本事情)	31	候文の書翰	44	雜誌と文化 (キング)
6	ジャンク小旗	19	日本語の敬語 (語學)	32	書翰文の文例 (封書)	45	笑話集 (各種雜誌)
7	日本語の音の種類 (語學)	20	文語文の文體	33	葉書文一束	46	北京情緒 (觀光東亞)
8	或宣教師の話	21	口語文と文語文 の對照	34	公用文	47	時は生命 (文藝春秋)
9	西比利亞鐵道車 中散見	22	富士山と櫻	35	和歌と俳句	48	國際時事
10	病院會話 (對話)(日本事情)	23	バクテリア	36	名歌集	49	雜報記事
11	野口英世	24	張良	37	名句集	50	廣告各種
12	標語	25	振子時計	38	川柳と狂歌		
13	擬態語の用法 (語學)	26	思ひやり	39	詩		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

この表4に示すように、巻4では、急速に難しさが増し、論説文、和

歌、漢詩の読み下し文、手紙の候文に至るまでの様々な文体が含まれている。1課-19課は口語文、20課-29課は文語文、30課-34課は候文、35課-40課は韻文である。また、新聞や広告などを複写した生教材が取り上げられていることから、多様な書式や文体の日本語を学習者に触れさせようと意図的に作られていることが分かる。全文は平仮名・漢字・片仮名を混交した形式で、対訳がなくなっている。また、日本文化と日本精神の紹介も置かれており、50課中5課が該当している。その他、時事として「外國思想の日本化と世界の大勢」、「麥畑の進軍」、「土に還る日」のような戦争の文学作品も載せられている。当時の社会要求に応じた政治的教科書になったと思われる。

2. 『日本語読本』

巻1は毎週3時限を基準として編纂されている。語彙は約753語、新出語は約487語、漢字は76字、読み替え漢字は12字である。

表5 『日本語読本』巻1の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	アサヒ	11	クダモノ	21	ハンタイノコトバ	31	マチ
2	コトリ	12	アキノヲハリ	22	ベキンノコウエン	32	ミチ
3	ナハトビ	13	アタラシイトモダチ	23	私ハサカナデス	33	テイシャバ
4	アキ	14	ガクカウアソビ	24	春	34	キシヤ
5	イサムサン	15	ヲリガミ	25	ケイサン	35	ハスノハ
6	イサムサンノエチ	16	ヒカウキ	26	一ピキタリナイ	36	サカナツリ
7	オ月サマ	17	オ正月	27	ウンドウ會	37	フジノ山
8	オ月サマノウタ	18	カゲエ	28	オイシャサマ		
9	私ハナンデセウ	19	ユキ	29	子モリウタ		
10	オツカヒ	20	日本ゴ	30	カヒモノアソビ		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

この表5が示すように、巻1では全て片仮名で表記されている。漢字が使用されているのは37課の中で12課だけである。目次にも本文にも漢

字の読み方は付与されていない。日本人の姓名と童謡も多く出ているが、中国大陸の地名と人名もある。日本のものを導入することが巻1でも重視されている。

巻2に提示した語彙は約989語、新出語は約505語、漢字は294字、読み替え漢字は35字である。具体的な内容を表6にまとめる。

表6 『日本語読本』巻2の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	ガクカウ	10	エンソク	19	クセ	28	しゃぼんだま
2	カナ	11	フロ	20	ハチ	29	オクリモノ
3	汽車ノエ	12	右ト左	21	ヒナマツリ	30	雨フリ
4	復習	13	トケイ	22	オ客遊び	31	ハハトカ
5	ノハラ	14	メクラト象	23	春が来た	32	花火
6	月	15	ナゾ	24	春ノ朝	33	ゆめ
7	タマゴ	16	ニイサン	25	學藝會	34	花さかぢぢい
8	ヒヨコ	17	ハネツキ	26	ねずみのちゑ		
9	道順	18	ニイサンノ手紙	27	コヒノボリ		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

巻2は平仮名・漢字・片仮名を混交した形式である。漢字が巻1より増えているが、34課中の5課だけに平仮名が使用されている。日本の年中行事もこの巻2に取り上げられている。

表7 『日本語読本』巻3の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	みなか	8	かけっこ	15	豆まき	22	笑話
2	寫眞	9	急ぎの用事	16	ラジオ遊び	23	映畫
3	あらし	10	電報	17	雪	24	星
4	月夜	11	出むかへ	18	火事	25	すみれんの花
5	周禮秀さん	12	お正月	19	寒暖計	26	豫防注射
6	東京から	13	李さんへ	20	おはかまゐり	27	舌切雀
7	国民體育大会	14	なぞ	21	さくら	28	正雄さんの日記

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

巻3からは学習指導書が付与されなくなっている。

表7に示すように、巻3は16課の「ラジオ」以外、全て平仮名・漢字で表記されている。日本的なもの与中国的なものが併存している。

表8 『日本語読本』巻4の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	北京の秋	7	かくれんぼ	13	陽子江の筏	19	櫻の寫生
2	周禮秀さんの日記	8	展覽會	14	校庭	20	客間
3	秋のゆふべ	9	雪舟	15	ひなまつり	21	織物工場を見て
4	かぐやひめ	10	黄河の冬	16	私たちの温床	22	機械
5	蹴球の試合	11	長い道	17	孔子	23	鐵道と少年
6	おかあさん	12	動物園	18	日本の年中行事	24	「つばめ」に乗って

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

巻4は全て平仮名・漢字で表記されている。日本の昔話及び行事などが取り上げられている。

表9 『日本語読本』巻5の目次

課	題目	課	題目	課	題目	課	題目
1	始業式	7	この道	13	攻撃やめ	19	日本語の文體
2	日本語の敬語	8	稻むらの火	14	寒稽古	20	をぢさんの講演
3	朝の歌	9	お手玉	15	いけ花	21	大東亜
4	科學博物館	10	着物	16	水車	22	アジアは一なり
5	月	11	餅つき	17	江南の春		
6	笛の音	12	十二月八日と一月九日	18	誕生日		

注：表は筆者作。読みやすくするため、目次の課数はアラビア数字で表記する。

巻5は全て平仮名・漢字で表記されている。「攻撃やめ」などの日本精神を宣伝している内容が取り上げられている。21課と22課には政治的と思われる内容がある。

国内外の兵士に兵器の取り扱いを分かりやすくして徹底させるためや、「大東亜共栄圏」という異言語からなる軍隊の統一を図るために、現行の日本語が難解に過ぎると判断した陸軍省は漢字制限や歴史的仮名遣いを改革するなど日本語の簡易化を実行した。つまり陸軍省は日本語を平

易にし、学習者の負担を軽減して効率の良い教育を行うという実利面を最優先させたのであり、軍事上の要請から日本語の簡易化が促されたわけである²⁰。しかし、大東亜共栄圏への日本語普及対策は準備不足であり、研究不十分であったといえる²¹。

これらの二種類の日本語教科書の比較を通して、以下の点が明らかになった。

共通点としては、二種類の日本語教科書とも歴史仮名遣いが使われ、「大東亜共栄圏」に役立つものが導入されていたことがあげられる。政治的な教科書として用いられていたと考えられる。

相違点としては、『日本語読本』には漢字の読み方がついておらず、歴史仮名遣いだけが使われていたことがあげられる。また、巻1の学習者すなわち日本語学習第2年度の程度においては、『ハナシコトバ』によって、話し言葉を習得した上で学習することが必要であったため、教師への依頼度が高いものであった。さらに、『日本語読本』の学習目標が相対的に不明確であった。一方、『効果的速成式標準日本語読本』に挿し絵はなかった。ただし、漢字の読み方が詳しく付与されていたため、初学者でも学習が可能であったと思われる。また、歴史仮名遣いと表音式仮名遣いは併用されていた。しかし、読みを優先しており、書かせる練習を要求しない教科書であったことから、学習目標は明確であった。

(三) 学習効果

昭和19年5月28日に第1回日語検定豫備試験が実施されている。成績は以下の表のとおりである。

²⁰ 前掲3 p17.

²¹ 前掲17 p49.

表10 第1回日語検定豫備試験秦皇島港試験場各等得点分布²²

	出願者	受験者	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-50点	49-40点	39-30点	29-20点	19-10点	9-0点
三等	23	23	1		2	1	8	4	4	1	2	
四等	31	30		1	1	4	6	6	4	5	3	

注：表は筆者作。

表10において、60点以上を合格と考えた場合、3等は4人だけで、受験者の総数の17.4%、4等は6人だけで、受験者の総数の20%を占めていたことがわかる。第1回日語検定豫備試験、つまり、『日本語読本』を使用したあとの試験の成績は理想的ではなかったことが見て取れる。

昭和20年5月13日に第2回日語検定豫備試験が実施されている。合格状況は以下の表のとおりである。

表11 第2回日語検定豫備試験合格者²³

	二等	三等	四等
受験者数	6	6	14
合格者数	5	3	7

第2回日語検定豫備試験では、2等の合格者は5人、受験者の総数の83.3%、3等の合格者は3人、受験者の総数の50%、4等の合格者は7人、受験者の総数の50%であった。前文より、昭和19年9月以後、『効果的速成式標準日本語読本』が使用されたことがわかる。以上より、2等の合格者が増加したこともわかった。成績は向上しているが、その一方で、3等と4等の合格者に限りがあったことや、1等の受験者がいなかったことから理想的な効果が達成できたとはいえない。

人は13、14歳以後は言語を直感的に受け止める能力が次第に衰え、こ

²² 「第一回日語検定豫備試験各等各試験場別得点分布表」(1944) 秦皇島港史志課檔案室所蔵 開深外国語檔案教育管理卷 元卷号G-3114 現卷号4752.

²³ 前掲22「第2回日語検定豫備試験合格者」(1945).

れを母国語に翻訳することによって正確かつ速やかに受け止める能力を備えるようになると言われている。したがって、このような年齢層には、直接法は不適切で、非効果的である。ことに速成を要する者に対しては、相当の年月を必要とする直接法は不適切と思われる²⁴。しかし、秦皇島港における「講習會ハ各語共六箇月程度ヲ以テ一期トシ毎年二期之ヲ實施ス 講習時間ハ毎週三時間以上トシ業務ニ支障ナキ時刻ニ之ヲ行フ²⁵」とあり、加えて、「効果的速成教授ハ学習者ノ熱心ナ自習ヲ基礎トスルノdealカラ学習者ハ本書ニヨリ豫メ教室外ニ於テ十分ナル豫習ヲスル必要ガアル。教授者ハソノ豫習ヲ本トシテ教室デハ全力ヲ會話練習ニ注グ事ガ肝要deal²⁶。」となっていた。働きながら、学習を強制された職員にとって、良い成績をとることは大変困難だったと思われる。

終わりに

秦皇島港における統治のため、日本語が堪能な者を統治システムに大量に組み入れることは急務であった。その際に用いられた『日本語読本』と『速成式効果的日本語読本』を比較することで、当時の秦皇島港日本語講習会における教科書が換わった要因を究明した。その結果『速成式効果的日本語読本』は成人向けの教科書として、秦皇島港の事情に当てはまっていたと言える。また、この分析により、秦皇島港における日本語の教授法には混乱が生じていたことが分かった。二種類の教科書の学習効果の差は実際に直接法と対訳法との論争に置き換えることができる。朝鮮半島や台湾では「国語」と呼ばれた日本語はまず「母国語化」することから始めなければならぬと考えられていた。国語を通し

²⁴ 前掲3 p28.

²⁵ 「語学講習會制」(1943) 秦皇島港史志課檔案室所藏開滦外國語檔案教育管理卷 日華語学奨励ニ關スル件 元卷号無 現卷号5286.

²⁶ 大出正篤 (1942) 『効果的速成式標準日本語読本』 卷1 諸言 満州図書文具株式会社 p3.

での日本精神の把握も国語を通しての皇民化もそれから後のことであるとされた。しかし、秦皇島港における日本語学習者は中国語を母語とした成人であったため、強制的に日本語を「母国語化」とすることは困難であった。これゆえに、秦皇島港日本語講習会は、対訳法の相対的な有効性を明らかにした。さらに、『日本語読本』を代表とした直接法が、日本語教育によって皇民化を進めようとした植民地においても中国占領地においても学習者の母国語を奪い、新たな母国語化を進めようとしたことを正当化した一助となったことは否定できないだろう²⁷。

参考文献

- 荒川みどり（2015）「大出正篤著『効果的速成式標準日本語読本』にみる中国東北部の成人日本語学習者像」『杏林大学外国語学部紀要』第27号 pp255-267
- 大出正篤（2010）『速成式効果的日本語読本学習指導綱要』日本語教育史資料叢書＜復刻版＞第8期 冬至書房 pp14-49
- 大出正篤（1942）『効果的速成式標準日本語読本』巻1 諸言 満州図書文具株式会社 p3
- 駒込武（1991）「戦前期中国大陸における日本語教育」『講座日本語と日本語教育 第15巻 日本語教育の歴史』明治書院 pp135-139
- 坂田篤義（2015）「大出正篤の日本語教材と速成式教授法」『リテラシーズ』16 くろしお出版 pp12-24
- 秦皇島港史志課檔案室所蔵開滦外国語檔案教育管理卷 元卷号無 現卷号5286

²⁷ 前掲3 p26.

秦皇島港史志課档案室所蔵開港外国語档案教育管理卷 元巻号G-3114

現巻号4752

関正昭ほか（1997）『日本語教育史』 アルク pp100-105

関正昭（1997）『日本語教育史研究序説』 スリーエーネットワーク
pp157-160

田中寛（2015）『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相』 ひつじ
書房 pp375-400

多仁安代（2000）『大東亜共栄圏と日本語』 勁草書房 pp4-28

日本語教育振興会編（1943）『日本語読本学習指導書』 巻1、巻2

前田均（2005）「大出正篤の「対訳法」に基づく日本語教科書」『天理大
学学報』 56（2） pp23-34